

幕末明治期、西洋美術が伝わりました。ここにはいろいろな思惑や意図があったはずです。西洋美術を伝える側にも、受け容れた日本政府にも、当然、地域社会にも。ではどんな意図が？どんな実を結んだのでしょうか？

平成 25 年 10 月 5 日 [土]

午後2時～5時 (開場 午後1時30分)

徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園内
二十一世紀館 多目的活動室(1階)
※イベントホールより変更になりました

参加無料

司会

河上眞理[京都造形芸術大学准教授]

パネリスト

金子一夫[茨城大学教授]

田中修二[大分大学准教授]

江川佳秀[徳島県立近代美術館学芸調査課長]

主催 徳島県立近代美術館、明治美術学会

2 時 00 分～2 時 10 分	開会にあたって
2 時 10 分～2 時 30 分	主旨および報告 「国家間の美術外交と地域社会における美術の展開」
2 時 30 分～2 時 50 分	パネリスト 江川佳秀 「西洋美術をめぐる小さな系譜—徳島藩御用絵師とその周辺」
2 時 50 分～3 時 10 分	パネリスト 田中修二 「肖像を作らせる意欲、作る意志—近代日本彫刻史から見る地域社会」
3 時 10 分～3 時 30 分	パネリスト 金子一夫 「近代地方美術史と図画教員—徳島県を中心に」
3 時 30 分～3 時 45 分	休憩
3 時 45 分～5 時	全体討論・質疑応答

お問い合わせ

徳島県立近代美術館 088-668-1088

神戸大学文学部美術史学研究室 ... 078-803-5577

「西洋美術との出会い」展

記念シンポジウム

幕末明治の地域社会は

西洋美術をどう受け容れたのか

展覧会会期

平成25年
10月5日[土]
から
12月1日[日]
まで